

作成日	2019 年 7 月 1 日
学科・専攻名	英文学専攻

教育課程・学習成果

1. 教育課程編成・実施の方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。

【現状説明】

教育課程編成・実施の方針のもと、学士課程での学修を基礎として、高度な専門性を身につけることのできる教育課程を体系的に編成している。特に、科目選択の柔軟性を確保するために、各専門分野において講義主体の特論科目とゼミ形式による演習科目を開講している。これにより、講義を中心としたコースワークと少人数での演習の組み合わせを基本にし、さらに修士・博士論文の指導を通したりサーチワークにより、高度な知識と研究手法を体得しうる教育課程を体系的に編成している。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特記すべき事項なし。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特記すべき事項なし。

2. 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置を講じていますか。

【現状説明】

シラバスに授業の到達目標、授業の概要、授業計画、評価方法、授業時間外の学習、学生へのメッセージ、教科書・参考書の明示、京女 AL 区分などを明記し、学生が主体的に学習するように設定している。またコースワークとして、講義科目、演習科目を設置しており、大学院生はこれらの履修を通じて、修了に必要な単位を修得している。また、論文作成にあたっては個別指導を行い、修士論文中間報告会や学会・研究会での発表を通して、サーチワークによる指導を行っている。なお、大学院生はティーチングアシスタントとして、授業の準備や後輩の指導補助を行うことで自らの学修到達度の確認と指導スキルの向上を図る制度があり、効果を上げてきたところである。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし。

3. 学生の学修成果を把握し、教育課程及びその内容、方法の適切性についての点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに教育の質向上に向けた取り組みを行っていますか。

【現状説明】

教育課程及びその内容、方法の適切性については、毎年度、次年度のシラバスチェックの際に相互に確認している。また毎年の募集要項の確認の際にも、学科会議において全体的な検討を行っている。採用人事の際には、カリキュラムや担当者の妥当性などを学科会議で検証している。その他の改善に結びつける取り組みとしては、院生アンケートへ回答の検討などを通して行っている。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし。

教員・教員組織、FD**1. 教員組織の編成(募集・採用・昇任など)にあたって、職位構成および年齢構成の偏りに配慮した編成をおこなっていますか。また、カリキュラムに基づく教員組織となっていますか。****【現状説明】**

教員組織のバランスについて、60～70 歳代が 12 人中 2 人（17%）、教授が 12 人中 7 人（58%）であり、全体としてバランスの取れた編成となっている。カリキュラムとの関連については、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、英語学英米文学および英米文化・英語教育で構成されるカリキュラムに対し、それぞれを研究分野とする教員を配置しており、カリキュラムと各研究分野が整合している。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし。

2. 学科・専攻独自の FD 活動を実施し、教員の資質向上に取り組んでいますか。**【現状説明】**

2018 年度は新年度のシラバスチェックの機会を利用して、全教員が参加してシラバスの書き方や授業の進め方、評価方法について意見交換を行い、全体の統一を図った。また、教員および院生・修了生の寄稿により紀要『英語英米文学論輯』を発行し、相互に論文査読を行うことによって、論文指導力の向上を図っている。2018 年度は教員 2 名・修了生 3 名からの寄稿に対し、教員 4 名が査読に当たった。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし。

内部評価委員会からの評価結果（内部評価結果レポート）

一般的なコメント（総評）
<ul style="list-style-type: none"> 一部を除いて、おおむね現状説明も具体的になされており、問題点も的確に認識されています。 院生アンケートへの回答の検討については、次年度に進捗を報告してください。
改善勧告コメント（具体的な改善の指示）
<ul style="list-style-type: none"> FD 活動の実施について、具体的な根拠が不明ですので、客観的なエビデンス等を明示してください。

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見
<ul style="list-style-type: none"> 大学院在籍者がいなかったため、具体的な FD 活動は困難でしたが、今後の院生指導に向けた資質向上の試みとして、教員・教員組織、FD の 2 の現状説明に「また」以降の一文を追加しました。